

あきらめない母の言葉を

「諦めは、弱さと人生の敗北」――。

2006年に93歳で他界した母の言葉を集めた「マサコおばあちゃんの名言集」（海電社）を、次女のエッセイスト、ヒロコ・ムトーさん(67)＝写真、横浜市在住＝が刊行した。

母マサコ・ムトー（武藤正子）さんは69歳の時に右目の視力を失い、言った。

「便利です。嫌なことが半分しか見えません」――。左目も白内障を患いながら、70歳でパステル画、88歳で高さ数センチの豆紙人形作りを始め、東京、パリ、米シア



トルで個展を開催した。大正時代をモチーフにした小さな紙人形が市民の人気を集めた。

ヒロコさんは「最期の病床でも窓に切り取られた空を描く母の創作意欲に、圧倒されました」と話し、作品を伝え残す活動を続ける。「母の作品や言葉が、年を重ねた人たちの光となってくれば」

マサコさんの故郷である北九州市の到津の森公園では今、「生誕100年マサコ・ムトー人間展」が開かれている（6月16日まで）。【上杉恵子】